

第 11 回 JAMS 研究大会のご案内

日毎に深まりゆく秋を感じる今日この頃、JAMS 会員の皆様には、御清栄にて御活躍のことと存じます。

さて、JAMS 研究大会の開催の季節がいよいよ近づいてまいりました。既にニューズレターでも通知されましたように、第 11 回 JAMS 研究大会は東京大学駒場キャンパスを会場に 12 月 7、8 日の 2 日間に渡って開催されます。早いもので JAMS も発足 10 周年という節目の年をむかえました。そこで、今回の研究大会では、この 10 年の日本のマレーシア研究の歩みをふりかえり、また同時に今後の研究を展望できるような研究大会としたいと考え、自由報告の他に次のような 2 つのセッションを企画してみました。すなわち、「Bangsa Melayu の諸相」と「華人研究の歩みと展望」です。

Bangsa Melayu の研究は、若手研究者や近隣のインドネシアなどを専門とする研究者の参加もありまして、JAMS 発足頃以降に一段と活性化しつつあるテーマといえましょう。ご承知のように、このテーマについては、1990 年代に Ariffin Omar や A.C. Milner などの歴史研究者が、近世あるいは植民地支配期から独立までの時代に焦点をあて、またインドネシアとの比較を通して論じています。そこで、このセッションでは、近世、脱植民地期、現代のマレーシアやインドネシアの事例についてご報告いただき、今後の研究に有効な方法、視点、キーワードなどについて皆様で活発に論議していただければ幸いです。他方、華人研究は、村落社会の研究などと並んで、日本のマレーシア研究では早くから研究が進展した分野のひとつですが、近年には JAMS 会員の著作の刊行も続き、ますます活発化しているように思われます。そこで、華人研究をリードしてこられた会員の方々および若手の会員にまずそれぞれご報告いただいた後、ご参加の皆様全員で華人研究の今後の展望について論議していただけたらと考えております。

ご多忙とは存じますが、実り多き研究大会となるよう運営に努めますので、来たる 12 月の研究大会には、より多くの会員の方々がご参加くださいますようお願い申し上げます。

大会担当 西尾寛治

第 11 回 JAMS 研究大会プログラム

開催日:2002 年 12 月 7 日(土)、8 日(日)

会 場:東京大学駒場キャンパス(東京都目黒区) 11 号館

会場へのアクセスは次の URL をご参照ください。

<http://www.c.u-tokyo.ac.jp/campus/index-j.html>

12 月 7 日 (土)

12:30 受付開始

13:30 開会宣言

13:35~14:15 第 1 セッション (司会:事務局・会報編集担当)

13:35~14:05 報告:「マレー(シア)語における神概念の表出をめぐるキリスト教指導者
層の議論」 綱島(三宅)郁子(マラヤ大学大学院言語学部博士課程)

14:05~14:15 質疑応答

14:20~17:25 第 2 セッション「Bangsa Melayu の諸相」(司会:関東地区委員)

14:20~14:35 趣旨説明:「近世史の見地から」

西尾寛治(東京女子大学)

14:35~15:05 報告 1:「脱植民地化とマレー・ナショナリズム」

山本博之(東京大学)

15:05~15:15 休憩

15:15~15:45 報告 2:「インドネシアの事例:アチェ」

西芳実(東京大学大学院)

15:45~16:15 報告 3:「マレーシアの事例:ジョホール州におけるエスニック集団の相互
関係」

永田淳嗣(東京大学)

16:15~16:25 休憩

16:25~17:25 総合討論

17:25~18:55 会員総会(司会:事務局・総務担当)

19:00~20:00 懇親会(会場:東京大学生協食堂 2 階ホール)

12月8日(日)

10:10~13:00 第3セッション「華人研究の歩みと展望」(司会:関西地区委員)

10:10~10:40 報告1:「マレーシア華人の研究:歴史学研究の見地から」

原不二夫(南山大学)

10:40~11:10 報告2:「マレーシア華人の研究:政治学研究の見地から」

金子芳樹(獨協大学)

11:10~11:20 休憩

11:20~11:50 報告3:「シンガポール華人の研究について」

篠崎香織(東京大学大学院)

11:50~12:00 休憩

12:00~13:00 総合討論

13:10 閉会宣言(JAMS会長)